

LLP 丸山プロジェクト

Contents

- 1 . LLP 丸山プロジェクトの概要
- 2 . NPO 法人集落丸山 設立趣意書
- 3 . LLP 丸山プロジェクト 建設費
- 4 . 施設平面図
- 5 . 集落案内図

LLP 丸山プロジェクトの概要

H21 年 10 月

NPO 法人集落丸山 + 一般社団法人ノオト

1. 事業実施の趣旨

平成 21 年 4 月 4 日に、丹波篠山築城 400 年祭が開幕した。築城 400 年祭は、一過性のイベントではなく、「これから 100 年のまちづくり」を始めるまちづくりの祭りとして位置づけられており、10 月末までの 7 ヶ月間、「歴史・文化」「暮らし・住まい」「観光」をテーマに、市民の手で 100 を超える様々な事業が展開されている。

また、篠山市においても、景観法の導入、歴史文化基本構想の策定、中心市街地活性化基本計画の策定、観光まちづくり戦略の策定など、行政と市民の協働によるまちづくりの推進に向けた新たな制度設計が進められている。

このように、市民が主役の新しいまちづくりの機運が高まるなか、『丸山プロジェクト』も、過疎地域の再生・活性化を図る新しい仕組みづくりを志向して実施するものである。

篠山市では、市内のほとんどの地域で過疎化・高齢化が進展しており、特に東部地域や北部地域、中心市街地で過疎化・高齢化が著しい傾向にある。このことは、我が国の農村地域における共通の課題でもあり、その解決は我が国の重要な課題であると言える。

その解決策として、『丸山プロジェクト』は、空き家や空き地、空き農地（耕作放棄地等）といった「負の遺産」の価値を再評価・再発見し、これらをその土地の文化や暮らしとともに「地域資源」として再生し、活用しようとするものである。

2. 集落丸山の取り組みと整備・運営方針

丸山集落には 12 戸の民家があるが、現在は、このうち 7 戸が空き家で、居住者は 5 世帯 19 人である。

平成 20 年度には、地区住民、転出者、関西学院大学学生、市職員等が参画したワークショップを計 7 回開催し、まちづくりの方向性、修景整備計画を策定した。また、これに一般市民を加えたまちづくり学習会を計 5 回開催し、古民家再生、農家民泊、獣害対策等について学習した。また、これと並行して、有識者によるフォーラムを開催、まちづくりのコンセプトを検討した。

その結果、日本人の心の原点というべき「集落の暮らし」を体験する空間とする、古民家等の再生により滞在施設を整備する、農業体験、アート、日本文化体験等のイベントを持続的に展開する、との方向性を確認した。

こうした活動から得られたコンセプトは以下のとおりである。

<コンセプト>

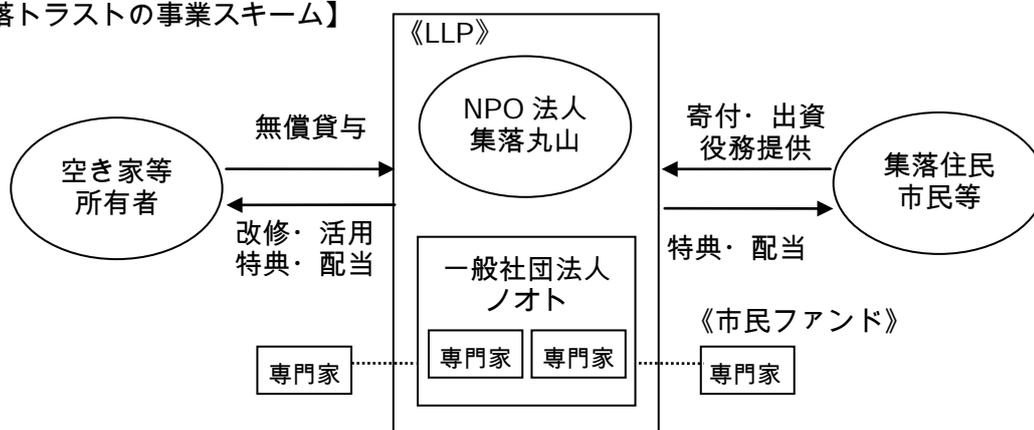
集落とは、この小宇宙に「集」い、「落」ち着くということ、ともに生きる、暮らすということ。定めと覚悟、悠久と豊穡。土間、縁側、たたみ、おくど、町並み、まつり、手工芸、里山、せせらぎ、鳥の声、気配、闇、蛍、星、祈り、土地の神様、家族……日本人が日本人として暮らさなくなったために失おうとしているものを、今、私たちは見つめ直したい。

3. 集落トラストの仕組みづくり

集落 NPO と中間支援組織としての一般社団法人ノオトが連携して、古民家等の再生整備と滞在体験施設としての運営を行う。

- ・ 空き家等の所有者は、自らの空き家、空き地、農地等を 10 年間無償で貸与。
- ・ 集落住民等は、事業資金の一部、役務等を提供。
- ・ 集落住民等は、集落マネジメントのために「NPO 法人集落丸山」を設立し、滞在体験施設の運営、各種体験イベント等を実施。
- ・ 一般社団法人ノオトは、古民家再生、観光、食、イベント等に関する専門家の派遣、市民ファンドの創設・運営、銀行からの資金調達等により集落の取り組みを総合的に支援。
- ・ 「NPO 法人集落丸山」と「一般社団法人ノオト」は、LLP（有限責任事業組合）を結成して、役割分担、費用負担、収益配分等を定める。

【集落トラストの事業スキーム】



- ・ 事業期間は 10 年間とし、その後の運営継続については協議して定める。
- ・ 本プロジェクトにおける役割分担は次のとおりである。

	NPO 法人集落丸山	一般社団法人ノオト
改修工事	○土地建物の無償貸与	○工事の委託契約
資金調達	・ 市民ファンドへの出資	○補助金の取得 ○市民ファンドの設立、運営 ○銀行融資
運営	○予約受付、接客サービス ○顧客情報管理 ○情報発信（インターネット等）	・ イベント企画 ・ デザイン管理 ・ 外国人観光客の誘致
収益配分	◎基金造成し、集落マネジメント事業に活用	

4. 公的支援

- ① 『新たな公』によるコミュニティ創生支援モデル事業 (H20、国土交通省)
- ② ふるさと原風景再生マネジメント(古民家の再生)事業 (H20、国土交通省)
- ③ 小規模集落元気作戦 (H20～H21、兵庫県)

5. 関連事業

本施設における宿泊体験がより楽しいものとなるよう、次のような事業に、順次、取り組んでいく。

- ・ 他の空き家の改修と活用
- ・ 修験道整備、クリンソウ見学登山
- ・ キャンプ場跡地整備
- ・ 新しい農産物や特産の創造、お茶会、料理教室の開催
- ・ 城下町等と連携した日本文化体験 (能、陶芸、書道、.....)
- ・ エクスカーション (城下町等のまち歩き、レンタサイクル、京都、神戸、.....)

6. 営業開始までの経緯

平成 20 年 9 月～平成 21 年 3 月 集落ワークショップの開催

平成 21 年 5 月～9 月 宿泊滞在施設 (3 棟) の工事

9 月 4 日(金) NPO 法人集落丸山設立 (法人化申請中)

9 月 14 日(土) 関係者内覧会 & 意見交換会

9 月 16 日(水)～18 日(金) LIVING & DEDIGN (インテックス大阪) 出展

9 月 19 日(土) 一般向け内覧会、仮オープン

10 月 1 日(木) 本格営業開始

丸山プロジェクト

企画：一般社団法人ノオト

運営：NPO 法人集落丸山+ろあん松田+ひわの蔵

設計：才本建築事務所

建築：若匠 (大西工務店、岡田工務店、森田建築)

協力：株式会社 STUDIO-KITA

金井啓修 (陶泉御所坊)

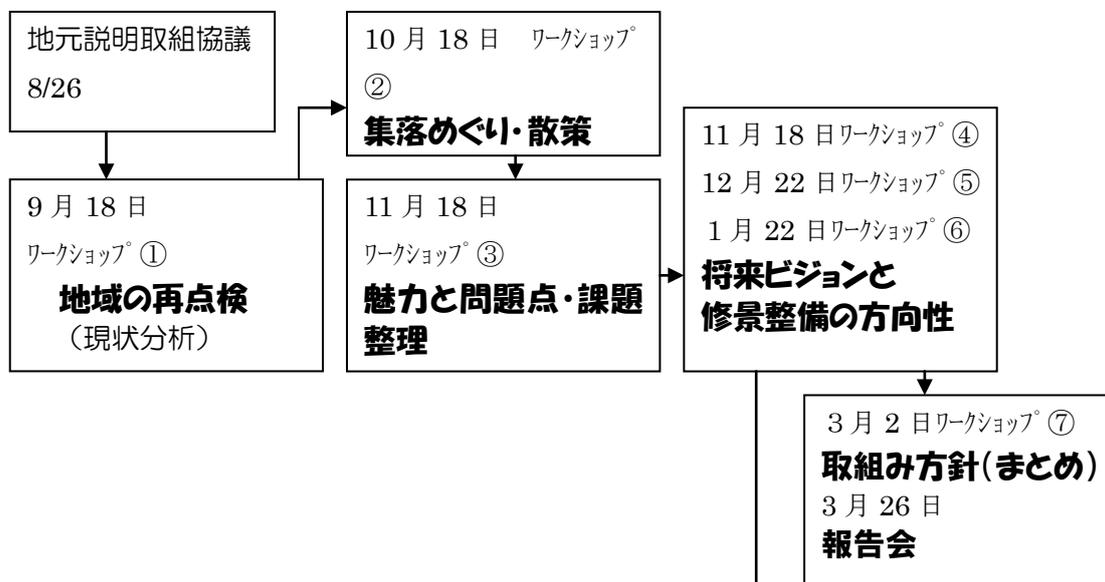
松場大吉 (石見銀山生活文化研究所)

財団法人兵庫丹波の森協会

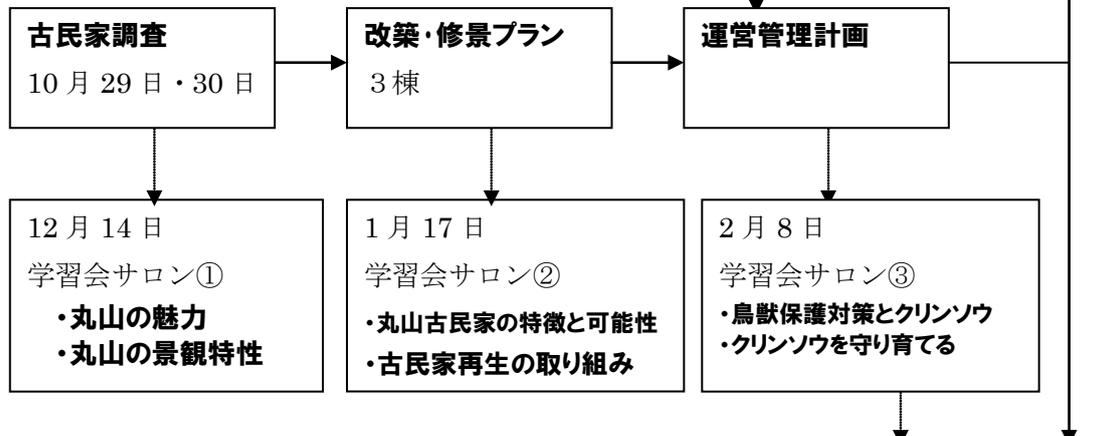
篠山市「丹波篠山の家プロジェクトチーム」

◇ 丸山地区で開催したワークショップ等

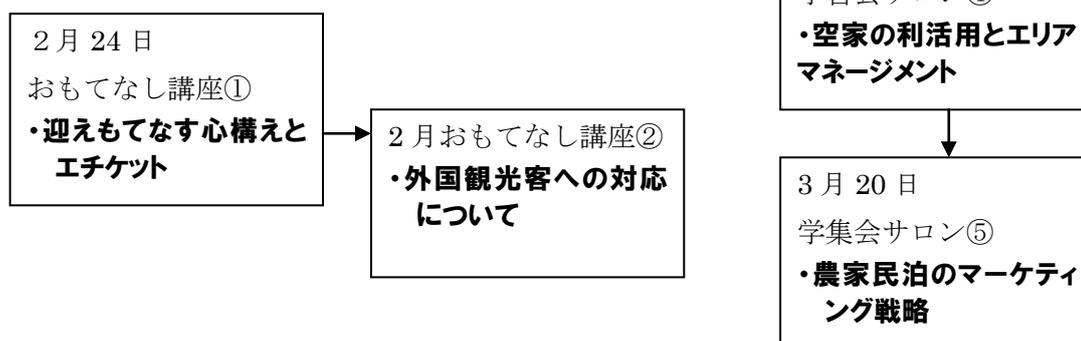
① 地域の見直しワークショップ（新たな公）ー集落景観修景整備計画



② 古民家調査ワークショップー空き家活用システム計画の提案



③ 農家民泊もてなし講座



ワークショップから

■魅力と問題点課題の整理

○強み	○弱み
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然の美しさ ・ クリンソウの群落（他にはない植物） ・ 静けさ（自然の声） ・ 調和のとれた集落（家並・屋並）景観 ・ 通り抜けできない地形（ドン詰まり） ・ 忘れる喧噪や雑踏感（ゆったり、のんびり） ・ 集落が家族であること ・ お米がうまい ・ 都市住民の訪れるそば屋さんがある 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鳥獣（虫）被害 ・ 日暮れ早く、日照時間短い ・ 住民少ない - ①様々な地域活動困難 ②緊急時の不安 ③環境が維持管理できない（農地や古民家等） ・ 車がないと生活不便 ・ 携帯電話の電波難 ・ 丸山を知る人が少ない（知られていない）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 田舎暮らし（自然回帰）ブーム ・ 食・農に関する関心の高まり ・ インターネット等の普及 ・ 自然の保護 ・ 団塊世代等のリタイヤ層の増加 ・ 丸山地区への関心の高まり ・ 国、県レベルのツーリズム支援 ・ 国際観光の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他地域でも地域の活性化重視 ・ 都市住民ニーズの個別化、複雑化 ・ 質（本物）に対する要求の高まり ・ 低支出型交流の増加（直接経済効果の逡減） ・ 自然的魅力資源（川・農地・里山）の荒廃 ・ 少子高齢化による担い手不足 ・ 三田・阪神間等への若者流出
○機会	○脅威

■地域外関係者や有識者から見た丸山の魅力や地域づくりの留意点

	雰 囲 気	道・農 地	家 並 み
魅力	<ul style="list-style-type: none"> ・ つくりすぎていない今のまが良 い。 ・ くらしが息づいていること。 ・ 都会の喧騒さを忘れられる。 ・ 居心地の良さ。飽きることのない環境。 ・ 懐かしいふるさと感、原風景性を感じる ・ 携帯電話が届かないことを逆手に取って、ぼんやりと時を過ごさせよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 程よい谷筋に、程よい距離感。歩くのに最適。 ・ 谷奥へ続く一本道に風情がある。 ・ 畦、畦畔木、灰屋、石積み、カキノキ、栗林、井戸、釣瓶、祠、石碑、お堂、無人の野菜販売所、コンコンの木、ケヤキの大木...集落墓地、黒岡川、ため池。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 茅葺屋根のどっしりとした存在感。 ・ 棟方向がそろっている。 ・ 大きな敷地のゆったり感。豊かさを感じさせる。 ・ 脇門とシイの木 ・ 朽ち果てそうな土壁、藁の質感、色合い、におい...
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進行的に作りすぎないこと ・ アノニマスに自然になじむ形で、 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道路の拡幅はしない。今のまが良 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 真新しくしすぎないこと
視点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 丸山の暮らしを前面に出す。過ごす時間を忘れさせよう。 ・ 古きものを活かして新しい視点で命を与えて、活用すること。古いものを活かしながら新しいものを創る ・ 時間とともに風化し、味わい深くなるエージングの素材感を大切に する。 ・ 暮らしの疑似体験を提供すること。 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 見る、聞く、家具、味わう、触れるなど五感を通して堪能してもらえ空間づくり。 ・ さりげなく玄関脇に草花をいけ、縁側に手入れされた古民具を置き、生活に対する気配りを感じさせよう。 ・ 必要以上に土壁を覆わない。土壁の色合いやひび割れは、歴史と素材の個性を感じさせる。自然素材の風格を大切に。手間と時間をかけたものは、何度見ても飽きない。 ・ 冷え、凍み、錆び、枯れが、丸山の「美」の原点。時間の経過を伝える素材感を出す。 ・ 屋外との一体感を強調する⇒縁側文化の再生を 		
提案	<ul style="list-style-type: none"> ・ 四季のしつらえが、丸山の風景の意匠。 ・ 丸山は、篠山城下の水源地。命の源である。本質・本物への回帰、すなわち自然や生命への回帰をはかってはどうか。日本の暮らしの豊かさを失ったと思う人たちを温かく受け入れる空間であり続けて欲しい。 ・ 丸山を愛し、誇りを持ち、暮らしの魅力を伝える中で、地場の食を大切に、空間を活かしたもてなしを創造するように。 ・ 丸山の価値を共有できる人達だけを受け入れれば十分。空間容量に見合った人数の受け入れ、無制限にはしないこと。 		

NPO法人集落丸山 設立趣意書

現在、丸山集落は、12戸の茅葺民家等から成る。12戸のうち7戸が空き家で、残る5戸に19人が仲良く暮らしている。御嶽に向かう黒岡川の細い谷筋に家屋が位置し、その間を黒岡川と並行して一本の村中道が東西に通っている。集落のその唯一の道は近畿自然歩道に指定されており、道に沿って農地が拓かれ、地区のシンボルである「コンコンの木」が村人の往来を見守っている。

そのような農地と里山を背景として、棟のそろった重厚な屋波と石垣、それらと一体となった白壁土蔵など存在感のある古民家群が美しい景観を保っている。稲穂が色づく秋になれば阿弥陀堂にのぼりが立ち、村祭りが始まる。今も農の文化が息づく丸山の情景は、まさに日本の農村の原風景を彷彿させる。「農」を通して自然と触れあう豊かな心をはぐくんできた丸山の里は、今も脈々と息づいている。

こうした丸山地区も少子高齢化が進行し、空き家の増大とともに、いわゆる限界集落化が懸念されている。農業の担い手不足や耕作放棄地の増加、獣害の拡大などにより地域全体の環境管理が困難な状況となっている。

こうした状況を打開するため、私たちは、これまで培ってきた豊かなコミュニティを背景に、使われなくなった個人資産は地域の共有資産であるとの認識のもと、他地域に住む財産相続者に代わって個人資産を協働管理すること、生きがいの持てる自律した地域経営を創造すること、そのための体制整備を行うこととした。

篠山城下町の水源地、御嶽の森山麓の細い谷筋に位置する「集落丸山」は、城下町から車で7分の距離ながら、懐かしい日本の原風景がそのまま残っている。携帯電話もつながらない。都会の喧騒を離れた別世界の風景が今も生きている。この丸山の財産をみんなで維持管理し活かすこと、そこに無限の可能性があると私たちは信じている。

集落は家族。先人を想い、未来を育む里づくりの推進をここに決意する。

平成21年9月4日

NPO 法人集落丸山代表 佐古田 直實

LLP 丸山プロジェクト 建設費

■工事費内訳

(単位：千円)

項目	金額	備考
工事費	48,300	A棟、B棟、C棟改修
追加工事	10,980	駐車場、NPO事務所等
設計監理費	4,460	
家具	612	机、椅子等
電化製品・備品	979	冷蔵庫、レンジ、掃除機等
小計	65,331	
人件費・報償費	265	アドバイザー謝金等
旅費	138	東京、大阪等
広報費	3,263	見本市出展、映像製作等
委託料	815	ホームページ制作、不動産鑑定等
雑費	1,488	内覧会、ユニフォーム、切手等
小計	5,969	
合計	71,300	

■資金内訳

(単位：千円)

項目	金額	備考
国補助金	35,800	ふるさと原風景再生マネージメント事業
県補助金	3,000	小規模集落元気事業
C棟負担額	9,000	所有者負担
銀行融資	14,000	但馬銀行
自己資金	7,000	
市民ファンド	2,500	@10万円×25口
合計	71,300	